

24/12/5（木）名古屋市議会本会議（名古屋城関係部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

成田たかゆき（自民）：次に、名古屋城天守閣木造復元に関して質問をさせていただきます。この復元プロジェクトは単に観光資源の整備ではなく、歴史的文化的遺産を後世に継承する大変価値のある事業であります。だからこそ難しく、だからこそ丁寧に課題を解決して取り組まなければ決して達成できない事業であると考えます。

このことは広沢市長も提案理由説明の中で話されていますので、私の認識はほぼ同じものだと思います。しかしながら、こうした前提は今から数年前広沢市長が副市長ととして、復元プロジェクトを担当していたときから何も変わっていません。

復元プロジェクトはなぜ進まなくなったのか、なぜ完成時期の見通しすらつかなくなってしまったのか、これを徹底的に分析して、着実に事業を前に進めなければいけないということでもあります。

天守閣を木造で復元するにあたり、前市長は本物という言葉にこだわり続け、エレベーターを設置しないというお考えでありました。

しかし一方で、避難用の階段は増設、消防用の設備は設置さらに木造建築にこだわっているかと思えば、基礎構造は現代工法になっております。

本物と聞くと多くの方は、江戸時代に建てられた名古屋城をそっくりそのまま復元すると思われれます。しかしながら実際には、現代工法で基礎を作り、あらたに階段を設置する他、消防設備を整備することになっております。つまりこれが河村前市長のおっしゃった本物だとしたら、当時のままにはこだわらないということになります。

そこで、広沢市長にお聞きします。

広沢市長が目指す天守閣の木造復元も河村前市長と同様に、石垣に建物の荷重をかけないよう、現代工法を取り入れた基礎構造で、3階から4階には避難階段を増設して、さらに消防設備をつけるという考え方でよろしいのでしょうか。あるいは江戸時代に建てられた名古屋城と同じものを再現するという考えなのでしょうか。広沢市長のお考えをお示してください。広沢市長は提案理由説明の中で反省すべきところは反省し、新たな真摯な姿勢で、一つ一つの課題に向き合うとおっしゃいました。

しかしながら、同様の趣旨で以前、松雄副市長も同じことをおっしゃってました。にも関わらず反省どころか、水面下において障害者団体と接触し、関係者から不信感を抱かれそのことから、そのことを指摘した議会をあろうことか人権侵害だと全く根拠のない誹謗中傷され、結果、松雄副市長は記者会見を開いて謝罪をされました。

広沢市長は目の前にある課題を承知しているとの発言もされていますので、こうしたまさに丁寧さを欠いた行動が、しかも差別発言問題から検証中にも関わらず、独善的な姿勢のものが最大の課題であるということも当然認識されているものだと思います。

こうした課題を前提にお尋ねいたしますが、まずはエレベーターについては河村前市長は一貫してつけないというお考えで、これはこれで一つの考え方だと思います。

一方、松雄副市長はとりあえず1階までとのお考えでした。

これは河村前市長と観光文化交流局の双方の意見の違いを調整できなかったことから思いついたことであり、しかも建築的に言えば最初から設計しない限り、後からエレベーターを上階まで設置するのは、強度的に不可能と言わざるを得ません。

また、ここ数年間エレベーターをつけるかつかないかだけが議論されており、本来の目標である、少しでも早く市民の皆さん、そして国内外の方々に木造で再現した天守閣を見ていただくことが忘れられているように思います。まさにこのこだわりが、これまでの復元事業が進まない理由だと考えます。

このような市長と副市長の意見の相違やこだわりが、観光文化交流局の職員を苦しめ、人権問題まで発展したことは、さっきの検証委員会でも指摘がなされているところでもあります。こうした課題や問題点を前提に、エレベーターの設置については冷静に考える必要があるのではないのでしょうか。そこで市長にお尋ねいたします。

広沢市長もエレベーターはつけないというこだわりがあるのでしょうか。

また、復元と復元的整備という言葉にこだわりをお持ちでしょうか。

さらには木造で再現するという目標は後回しにしてでも、こだわりを優先したいとお思っていますでしょうか。

広沢市長のお考えをお聞かせください。

次に、丁寧に向き合い着実に事業を進めるという市長の決意についてお尋ねいたします。

広沢市長が副市長だった頃、文化庁との調整において現天守閣の解体を先行してから復元するという手続きを突然、解体と復元を一体的手続きに変更しました。

一体的にする手続きに変更しました。当時この方針変更については、議会からも疑問の声が出ましたし、文化庁からも様々な意見がされたこともご存知だと思われま

す。では現時点での復元プロジェクトはどうかというと、まずは現在の天守閣を解体する。

石垣の調査を行う。そして復元を行うとなっております。

つまり、これは方針変更の前の状態に戻っているということになります。

あのまま解体先行として事業を進めていたら今頃は解体が終わり、もしかしたら2026年のアジア競技大会には復元された木造天守閣で、国内外からの観光客をお迎えできたかもしれません。そう考えますなぜ突然方針を変更したのか正直理解ができません。

市長が本気で復元プロジェクトを進めるならば、そうして本気で反省すべきところは反省し、改めて真摯な姿勢で一つ一つの課題に向き合うというのであれば、何も進まなかったというより後退してしまった復元プロジェクトの本質的な原因の調査を行うべきだと考えます。

そこで復元事業の課題に丁寧に向き合い、着実に前進させるためには原点に立ち返り、これまでの進め方について検証を行う必要があると思いますが、こうした検証をされるおつもりがあるのか、それともこのまま強引に事業を進めていくのか、広沢市長のお考えをお聞かせください。

次に、広沢市長はこれまで事業に携わってきた職員とも議論を重ねていくという発言をされています。

現在、事業に携わってきた職員が河村前市長、そして松雄副市長からパウハラを受けたという証言もあり、現在、第三者委員会が開催されています。

私は目の前の課題に丁寧に向き合い着実に事業を前進させるのであれば、こうした職員との議論は大変重要だと思っております。

今後パウハラにおける第三者委員会でも、職員のヒアリングがなされると思いますが、市長としても復元事業に関わった職員から直接、生の声を聞いていただきたいと思っております。このため元職員を含めて、事業開始からこれまでの復元事業に関わった職員に対して、例えば無記名でのアンケートを実施するなど徹底した課題解決を行っていくおつもりはありませんでしょうか。

市長のお考えをお聞かせください。

広沢市長：2点目は、名古屋城天守閣の木造復元についてでございます。

まず、木造復元の考え方でございます。

名古屋城の天守は多くの史資料が残されており、史実に忠実な復元が可能な唯一無二の城でございます。

可能な限り江戸時代の姿の天守を復元し、将来的に国宝となりうる文化財としての価値を追求をしております。

一方で復元にあたりましては、現代工法を取り入れた基礎構造や階段の増設など多くの方に観覧していただくための防災、避難、耐震、観覧のための設備を付加することとしており、完全に江戸時代の天守を復元するものではございませんが、文化庁の史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準に基づき、史実性を追求した上で、江戸情緒を損なわない範囲で復元を実現をしております。

このように復元した名古屋城天守が今まで以上に市民の皆様にとって誇りとなり、名古屋を象徴するシンボルとなることを目指して木造復元を進めてまいります。

次に木造復元案のこだわりについてでございます。

名古屋城の木造天守は、文化庁の基準の復元として、規模、構造等に高い蓋然性を確保することとしており、その点につきましては拘りを持っております。

そのため大型のエレベーターにつきましては、木造天守の梁、柱などを取り除く必要があるため設置をしない方針としております。

一方、昇降技術に関する公募で選定された小型昇降機であれば、構造を変更することなく設置でき、かつ各層ごとに乗り換えて上層階まで目指せる技術であるため、現在実現に向けて開発を進めているところでございます。

また、社会的要請としてのバリアフリーは重要であり、文化財としての価値を追求し、未来の国宝となりうる文化財としての価値や江戸情緒を損なわない範囲におきまして、小型昇降機をできる限り上層階まで設置することについてチャレンジし、史実性とバリアフリーを両立させたいと考えております。

こうした考えのもとに、障害者を始めとする当事者を含めた市民の皆様や専門家、議会の皆様からも幅広くご意見を伺いながらご理解を得られるよう木造復元を着実に進めてまいります。

次に事業の検証についてでございます。

観光文化交流局から検証委員会の最終報告を踏まえ、これまでの事業全体の進め方がどうであったかの観点を含めて総括を行い、再発防止策や当事者参画の仕組みを含めた今後の事業のあるべき進め方を整理すると聞いております。

私からもその方向で進めるよう改めて指示をしたところであり、総括の結果を踏まえ、観光文化交流局、また関係局とも丁寧に議論しながら進めてまいります。

次に、職員とも共通認識についてでございます。

風通しの良い職場が何より大切であり、市長、副市長および職員の間で何でも言い合える関係を築き、共通の認識を持って事業を進めてまいります。

観光文化交流局における総括の中で、事業に携わってきた職員からも、これまでの事業全体の進め方等についてヒアリングを行うと聞いているところであり、議員からのご指摘も踏まえ、その報告を受けながら職員と議論を重ね、チームが一丸となってこの事業に取り組み困難を乗り越えていけるように、丁寧な上にも丁寧に、かつ、スピード感を持って事業の完遂を目指してまいりたいと考えております。

成田たかゆき（自民）：次に名古屋市天守閣木造復元について要望と再質問をいたします。先ほどの広沢市長の誠意ある答弁を聞き、私は正直驚きとともにおそらく浅井議員も含め大きな期待感を抱いたところではないでしょうか。

河村前市長はエレベーターおろか名古屋市が公募で選定した昇降技術すら設置しないと発言をされておりましたが、広沢市長はこの昇降技術の上層階への設置を目指すとし強いご答弁をなさいました。

これは障害のある方だけではなく、高齢者また妊産婦さらには小さな子どもさんを持つ方など、あらゆる方にとって大きな希望となる答弁だったように思われます。そして名古屋城天守の木造復元に向けて大きな一歩を踏み出す答弁だったとも思われます。

市長からは、市長、副市長および職員の間で何でも言い合える関係を築き共通認識を持って事業を進めてまいりたいという答弁もございました。

しかし検証委員会の最終報告にもある通り、これまではそれができておりませんでした。

河村前市長、松雄副市長、観光文化交流局、各々がバラバラでありました。

ましてや松雄副市長におかれては、我が会派の大先輩でありました渡辺義郎前市議の本会議質問に対するご自身の答弁を引き合いに出し唐突感が否めない状況の中で市民討論会を強行されました。

そしてその討論会で、絶対にあってはならない人権の問題が発生してしまいました。

起こるべくして起きた問題ではないかと、残念なことに私は思えてしまいます。

また局長が検証委員会の最終報告を踏まえた総括を行い、謝罪を行った上でなければこの事業は前には進めないとおっしゃっておられる裏側において、松雄副市長は勝手に障害者団体と交渉し、合意文書なるものまで作成されようとしていました。

その動きが発覚し本会議において浅井市議から指摘をされますと、松雄副市長は理事者である立場にも関わらず、あまりにも不誠実な答弁をされました。

さらには本会議後の取材対応において、浅井市議を名指して条例違反のおそれがあるなどと批判し、名誉を著しく傷つけられました。

そののち松雄副市長は謝罪会見を行い発言を撤回したいとおっしゃられたようですが、こうした出来事に表れているように、名古屋城木造復元事業は個人の単独、独断によって、あまりにも恣意的に進められてきて、まさにそれがその証左であります。簡単にこれは許される問題ではないと思います。

名古屋城天守の木造復元は、名古屋市にとって非常に重要な事業の一つだと思います。

そのような行動をとられる方にこのままの事業の舵取りを任せられるのでしょうか。

そこで、広沢市長にお尋ねいたします。

先ほどの答弁を実行していただくためには、今後どのようにこの事業を進めていかれるおつもりなのか、具体的にお答えください。

広沢市長：名古屋城天守閣木造復元について再度お尋ねをいただきました。

繰り返しの答弁になりますが丁寧な上にも丁寧に、かつスピード感を持って事業の完遂を目指してまいるためには、チーム一丸となり共通の認識を持って事業を進めることが必要であると考えております。

私にとって最重要政策の一つであるこの事業では、バリアフリー、人権推進体制、収支計画など多くの課題に対し関係局と連携し全庁的な議論、合意形成を図りながら進めてまいる必要があると認識をしております。

今後事業を進めるに当たりましては、私を支える3人の副市長にそれぞれの立場から意見を述べてもらい、しっかりと議論を重ねた上で最終的に市政の責任者である私が、判断をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

成田たかゆき（自民）：差別発言、パワハラなどが問題となって、この名古屋城の復元が止まっています。これはまさにその技術がどうか、その以前の当局内部の私は問題だと考えます。

人権侵害をされて今なお苦しんでおられる方だっているんです。

市長は最重要課題の一つであるとおっしゃるのであれば、その原因をご自身で確認をされ、そうした根を性根を断つそういった対処をせずして、私は復元はできないことを申し上げておきます。

続きましてこの木造復元であります。2017年3月の時点では総事業費505億円との説明がされたところであります。

そのために要する費用については、天守閣を木造で復元することによる入場者数、入場者数の増加と、入場料金の変更を行うことにより、入場料収入で賄うことを考えているとのことでありました。

あれからもう既に7年半以上が経過をいたしました。

昨今では言うまでもなく建築資材の高騰、建設職場での働き方改革、そうした実施などを受けて、整備費は著しく高騰しており、天守閣の木造復元も505億円では到底収まるとは思えない状況にあると思います。

そこで市長にお尋ねいたします。

2017年3月時点で505億円であった名古屋城天守閣の木造復元の費用は、現在どのくらいになっているとお考えかお答えください。

広沢市長：名古屋城天守閣木造復元の事業費について再度のお尋ねでございます。

本事業につきましては、現在全ての契約を締結している状況ではなく、また将来の建設物価や人件費などの価格高騰を見通すこともできないため、お尋ねの事業費については現時点で想定することが難しい状況でございます。

しかしながら竹中工務店からは、基本協定に定める上限額の505億円を超えないよう最大限の努力をしたいと聞いておりますので、本市といたしましても適宜情報共有しながら、引き続き事業費の管理に努めてまいります。以上でございます。

成田たかゆき（自民）：これが実はおそらくですね、明確な金額のお答えがなかったというのは、技術提案交渉方式の中で上限をもう決めていくということでもありますから、なかなかこれ私にとってみたら、おそらく505億円で収まらないと、これ誰もが感じていることだと思いますから、聡明な市長さんだったらおわかりにきつくなるはずだと思います。なかなか軽々に言葉が出ないというのは理解いたしますけれども、しかしながらこれ、ここでもこれ財源が財源が必ずここには片方にあるわけでありまして、木材この保管料ですら、毎年1億円程度の予算が実際に保管料かかっているわけでもありますから、これおそらく減税よりもこちらをね、もしかすると優先せねばならないとそういった事情もあるのかなというふうに私は危惧をいたします。

先ほど来からのバリアフリー、そして人権侵害、そしてパワハラ、こうした問題、その前にまさに解決すべき課題があるそういった中、多くのマニフェスト項目、その実現をされる市長、相当な覚悟がいらっしゃると思います。丁寧な上に丁寧に、またスピード感を持って事業の完遂を目指していただきたいと思います。

名古屋城については、以上であります。

成田たかゆき（自民）：今回の広沢市長マニフェストの項目全部実施をしようとすれば、おそらくとてつもない財源が必要になると私は思います。

しかしながらこれはご自身が市民へのお約束としてご自身が掲げてきたことであります。

名古屋城天守閣の木造復元、そして10%減税、これらもご自身が掲げてこられました。だからこそ必要となる財源は、市政を預かる長である市長が探し出し、あるいは行革を推進し市民にきちんと説明をした上で名古屋城天守閣の木造復元も10%減税も実現をしていただきたいと思います。

ただし財源が示されないまま、10%減税が先行するような提案がなされた場合には市政のチェック機関である議会の職責として、ちょっと待ってくださいよと言わざるを得ません。そうした場合、市議会が市長の提案を止める原因を作っているのではなくて財源を示すことができない、市長そして当局が止める原因を作っているんだと申し上げておきます。

広沢市長は以前、河村先生からは品のないところ以外全部継承するとおっしゃられていました。

ぜひ広沢市長には、本日のやり取りからすると、相当オリジナリティ個性が私は大切にされている、そのように思われます。どうか、品のある議論を私どもが意外と丁寧に重ねていただきたいと思います。

引き続き諸課題に対し真摯に向き合い、我々自民党市議団も惜しむことなく議論を尽くしていくことをお約束いたしまして、私の全ての質問を終わります。